



友達を大切にすること

江浦小学校 五年 本田 夏望

「友達を大切にすること」には、どのような行動をすればよいでしょうか。一緒に遊んだり、やさしく接したり、困っているときに「大丈夫？」と声をかけたりと、たくさん考えることができます。また、「友達を大切にすること」を、逆から考えてみると「友達を大切にしないこと」をしないことも大切だと考えることができます。「友達を大切にしないこと」の中にも、いじめがあると思っています。いじめとは、どのようなことか考えてみました。一言で言うとう、人がされて嫌だと感じることをすること。例えば、悪口、コソコソ話、無視、うそつき等、心に痛みを与えることに加え、暴力、やりたくないことを無理矢理させられること等、体に痛みを与えることです。このようなことは、されるだけでなく、見るだけでも、とても悲しい気持ちになります。いやな気持ちになります。一緒に生活していくのが苦しくなってしまう。だから私は、いじめは当然

「先生のコメント」
「友達を大切にすること」について、再度考え直すきっかけとなる内容ですね。「友達を大切にしない」視点と「友達を大切にしない」行為を行わない視点の異なる見方で、これからの友達との関わり方を見つめ直していますね。後半には、いじめを消し去ろうとする強い意志が伝わってきます。いじめは、法的にも許されない行為です。いじめをとめるためにさまざまな方法を考え、行動することは、正しいことです。勇気と自信をもって行動し、みんながいじめのない、明るく楽しい社会をつくっていきましょう。

「友達を大切にすること」には、どのような行動をすればよいでしょうか。一緒に遊んだり、やさしく接したり、困っているときに「大丈夫？」と声をかけたりと、たくさん考えることができます。また、「友達を大切にすること」を、逆から考えてみると「友達を大切にしないこと」をしないことも大切だと考えることができます。「友達を大切にしないこと」の中にも、いじめがあると思っています。いじめとは、どのようなことか考えてみました。一言で言うとう、人がされて嫌だと感じることをすること。例えば、悪口、コソコソ話、無視、うそつき等、心に痛みを与えることに加え、暴力、やりたくないことを無理矢理させられること等、体に痛みを与えることです。このようなことは、されるだけでなく、見るだけでも、とても悲しい気持ちになります。いやな気持ちになります。一緒に生活していくのが苦しくなってしまう。だから私は、いじめは当然

飲食業 柳詰 将輝さん (23歳)

高田町に店を構えるラーメン屋の『柳屋』。そこで調理、接客に励んでいる柳詰将輝さん。『柳屋』は柳詰さんの祖父母が開き、現在は東京と名古屋にチェーン店があるとのこと。「この店は開店してから約50年になります。もともと料理に興味があったことと、小さいころからこの店で働く祖父母の姿を見ていたので、自然と店を継ぐ道を選んでいました」
修行で得たものを活かして
高校を卒業して1年間『柳屋』で働き、その後久留米のラーメン屋で4年間修業を重ねた。今年の7月にみやまに戻り、修行で得た経験を活かしながら、腕を磨いている。

「久留米で修業をしているとき、ラーメンを提供することに責任感が芽生えてきました。その店の『味』を楽しみにしていたら、いっているお客様のために、より丁寧に作ることを意識しています」
接客の際にも、一人一人への気配りを感じ、来てくださるお客様には感謝の気持ちを忘れず。
「開業してから50年、毎日のように食べに来ていただいているお客様もいらつしやいます。自分が提供する料理を通して、皆さんを笑顔にできることが一番のやりがいです」
築かれてきた伝統を受け継ぐ
将来的には店を継ぎ、先代が築き上げてきた伝統を守りつつ、チェーン店を増やしていきたいと語る。



やなづめ まさき
現在は祖父らとともに5人でラーメン屋を営む。趣味は魚釣り。高田町江浦町。
【みやまにひとこと】
人の温かさが感じられ、住みやすいところが好きです。
【好きな言葉】感謝

「当店のとんこつスープは約50年前から変わらない手法で取り続けています。味の研究を続けて、この店ならではの長所を伸ばし、よりおいしいものを提供したいです。ラーメン作りを通して、みやまを盛り上げていけたらと思います」
常に学ぶ姿勢が伺える柳詰さん。これからも地域に根付いたラーメン店の担い手として、前進していく。

NOヘイトスピーチ

「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」（通称ヘイトスピーチ解消法）が施行され、4年が経過していますが、いまだ特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動が発生しています。

ヘイトスピーチは、それを見聞きした人々に悲しみや恐怖、絶望感などを抱かせるものであり、決してあってはならないものです。
ヘイトスピーチを知り、ヘイトスピーチをなくしていくことの必要性について理解を深め、民族や国籍を超え、互いの人権を尊重しあう社会をともに築きましよう。

ヘイトスピーチによる被害など、人権に関する問題でお悩みの人は相談ください。
みんなの人権110番
(Tel) 0570・003・110
福岡法務局人権擁護部
(Tel) 092・739・4153



みやま文芸

高田町句会

- 向かひ合ふ熊蟬の手の触るる時 板橋 寿
- 初蟬や耳を預けてジャム作り 岩屋 清美
- かうもりの一回りして消えにけり 紙田 幻草
- 出水禍の断層ずらす詣徑 猿渡 洋子
- 調整のきかぬうき世や西鶴忌 西山ワカ子
- コロナ禍で夏祭なし孫も来ず 野田 憲二
- 偲ぶ人また増えにけり盆の月 野田岳比古
- 茅葺きの紅の簪 百日紅 松尾 光恵

